

連会長(参院議員)、近藤昭一衆院議員、日本共産党の、しまつ幸広衆院議員が参加。大塚、近藤の両氏は「参院で阻止するため、多くの市民の支援を」。しまつ氏は「表現の自由、思想を縛る『共謀罪』法案廃案へ、全力を挙げ野党と市民の共闘を広げる」と決意を述べました。

リレートークで日本基督教団名古屋中央教会の草地下作牧師、本秀紀・名古屋大学大

院教授が訴え、丹羽宇一郎・元中国大使らのメッセージが紹介されました。

集会後、参加者は「市民を監視する法律はいろいろな」「テロ対策は関係ない」と唱和しながら繁華街をデモ行進しました。

家族の一人で参加した佐伯雅代さん(58)は「衆院を通過したが、あきらめたら参院も首相の思いつく。参院で阻止するため声を上げ続ける」と語りました。

# 損保代理店 現状・未来考える

## 大門議員が報告 大阪でシンポ

大阪損保革新懇、代理店プロジェクト



質問に答える大門氏(右から3人目)とパネリストら。28日、大阪市

改正保険業法施行から1年を迎え、損保保険代理店の現状と未来を考えるシンポジウムが26日、大阪市内で開催されました。大阪損保革新懇・代理店プロジェクト

シンポが主催し、消費者と代理店、保険会社の健全な関係をめざし、運動を継続することを確認しました。中小の代理店の経営を苦しめる手数料ポイ

ント制度などを国会で取り上げた日本共産党の大門実紀史参院議員が国会報告しました。

大門氏は、参院財政金融委員会でのポイント制度の実態調査の要求をきっかけに、金融庁が保険会社と代理店から聞き取り調査を始めたことを報告。代理店の社会的役割を語り「みなさんの声が大きくなるのが今後の運動の要です」と話しました。

大阪損保革新懇代表世話人の野村英隆さん、兵庫県立大学客員研究員の松浦章さんは基調報告で、大門氏の質疑が反響を呼んでいると述べ、「少しずつ変化が生まれてくる」と強調しました。

パネリストとして損保代理店「アークプラン」代表取締役の小橋信彦さん、「関西総合保険事務所」代表取締役の田中考さん、「ハマキタ保険」取締役の坪井勝志さんが発言。手数料ポイント制度の廃止、自動車事故発生時に保険を使わないように誘導する「事故あり等級制度」の見直し、保険会社への従属化で代理店の自立した経営が困難な現状などを訴えました。